令和８年度 病害虫発生情報 第３号

令 和 ８ 年 １ ０ 月 ２ １ 日
千葉県農林総合研究センター長

キャベツ黒腐病の発生状況について

１　黒腐病について

黒腐病（写真１）は細菌性病害である。発病すると葉の縁が黄変し、やがて葉脈に沿ってＶ字型の黄褐色病斑（写真２）を形成する。発病が激しい場合には、結球葉にも病斑が広がり、さらに根や茎の維管束が黒変することで、品質及び収量の低下を招く。

本病菌は被害残さ中で生存し、条件によっては１年以上残存することがある。残さ中で生存した病原菌は、降雨による土壌の跳ね返りなどによって葉縁の水孔や傷口から侵入し感染する。さらに、病斑部で増殖した病原菌は降雨や風雨により周囲へ飛散して二次伝染し、感染を拡大することから、降雨が多い時期や台風、強風により傷が生じやすい条件では発生が助長される。

２　発生状況

（１）10月上旬に行った冬キャベツの県内５地点の巡回調査において、黒腐病の平均発病株率は37.60%（平年値1.00%）と、過去10年と比較して最も高かった（図）。

（２）気象庁による３か月予報（10月20日発表）では、降水量は多い見込みである。本病は降雨により発生が助長されるため、今後も発生しやすい条件が続くと考えられる。

また、同様に降雨により発生が助長される細菌性病害（黒斑細菌病など）の発生にも注意が必要である。



写真1　黒腐株の発病株



写真２　Ｖ字型の黄褐色病斑

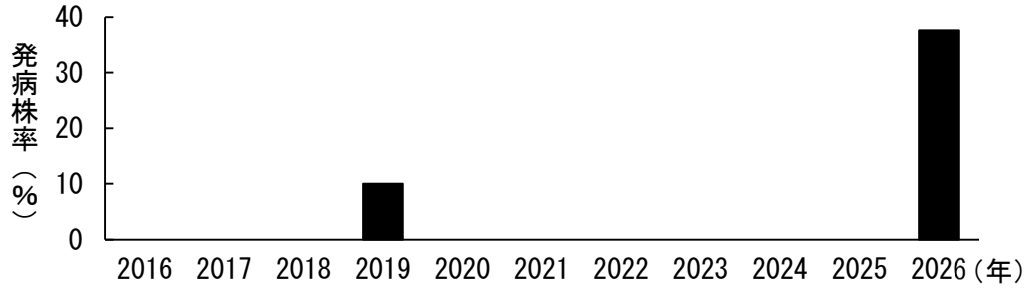


図　冬キャベツ 10 月上旬調査におけるキャベツ黒腐病の発病株率

３　防除対策

（１）耕種的防除

ア　地下水位の高いほ場や水はけの悪いほ場では、ほ場の排水を良好に保ち、過湿状態にならないようにする。

イ　害虫の食害痕からの病原菌の侵入を防ぐため、害虫防除も徹底する。

ウ　葉先の水孔や強風による傷口からも病原菌が侵入するため、強風が予想されるときにはべたがけ等を使用する。

エ　中耕作業によって生じる傷口は病原菌の侵入口となることから、発生ほ場では中耕作業を控え、又は株際の中耕作業を避け､植物体をなるべく傷つけないよう留意する。

オ　発病株は早期に抜き取り、ほ場外で適切に処分する。土壌伝染するため、すき込みは極力避ける。

（２）薬剤防除

ア　結球始め頃から２週間間隔で３回程度、表の薬剤のいずれかを展着剤を加用して散布する。

イ　風雨前の銅水和剤、カスガマイシン・銅水和剤の散布は風雨後の散布に比べ防除効果が高い。

ウ　銅水和剤は降雨の影響を受けにくく、台風前に散布すれば台風後に再散布の必要性は低い。

表　キャベツの黒腐病に対する主な登録農薬（2026 年 10 月７日現在）

ＦＲＡＣコード※	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
24＋Ｍ１	カスミンボルドー	1,000倍	収穫７日前まで	４回以内
24＋Ｍ１	カッパーシン水和剤	1,000倍	収穫７日前まで	４回以内
31＋24	カセット水和剤	1,000倍	収穫７日前まで	３回以内
31＋Ｍ１	ナレート水和剤	800倍	収穫14日前まで	３回以内
Ｍ１	Ｚボルドー	500倍～1,000倍	発病前～発病初期	－
Ｍ１	オキシンドー水和剤80	1,000倍	収穫14日前まで	３回以内
Ｍ１	キノンドーフロアブル	800～1,000倍	収穫14日前まで	３回以内
Ｍ１	コサイド3000	2,000倍	－	－
Ｍ１	ヨネポン水和剤	500倍	収穫７日前まで	５回以内
Ｕ18	バリダシン液剤５	800倍	収穫７日前まで	５回以内

※　ＦＲＡＣコードとは、殺菌剤の作用機構の分類を表すものである。（24：カスガマイシン、31：オキソリニック酸、Ｍ１：銅「有機銅を含む」、Ｕ18：バリダマイシン）

注　農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録内容を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。
https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/
・薬剤の選定については，最新の農薬登録情報を確認してください。
https://pesticide.maff.go.jp/

問合せ先
千葉県農林総合研究センター病害虫防除課
〒266-0014　千葉市緑区大金沢町 180 番地１
TEL 043(291)6077　FAX 043(226)9107
E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp